



総合科目担当者連絡会報告

沼澤 秀雄

全学共通カリキュラム運営センター専門委員
コミュニティ福祉学部教授

全学共通カリキュラム（以下、全カリ）におけるFD活動のなかでも重視していることは、カリキュラムを運営する教員と科目担当教員とが一同に会して授業運営や教育改善のための情報を共有し、議論する「担当者連絡会」の開催である。

総合部会では2008年度は「大人数授業」の課題をクローズアップさせ、山田総合部会長を中心に、一つひとつの科目から問題点を顕在化し、改善させることを目的として、前期・後期各1回の「担当者連絡会」を企画することになった。

前期の担当者連絡会は7月25日（金）に開催された。試験期間中にも関わらず、全カリ運営教員を含め32名の教員が出席し、コーヒータインを入れながら午後5時から2時間半、和やかな雰囲気の中でも積極的な議論が行われた。

まず、山田総合部会長から、本学の教育環境や現状について、他大学と比較した専任/兼任教員数や教員一人当たりの学生数の紹介、総合科目が対象とする1年～4年の全学生数は約17,000名、平均クラスサイズが220人で各学部の平均よりも大きいことなどが説明された。次に沼澤が、具体的な授業運営と成績評価の実際について紹介し、ハンディターミナルでの出席確認、授業補助としてのTA・SAの活用、WEB支援システムであるCHORUSを使った授業などの説明を行った。さらに、追試験、成績評価調査制度の説明と大学教育開発・支援センターが実施している「学生による授業評価アンケート」での全カリについての結果を報告した。

メインのプログラムは、大人数科目で優れた教授法を実践されている「行動の科学」担当の早川洋一先生〔本学兼任講師（国際基督教大学）〕、「現代人とサプリメント」担当の杉浦克己先生〔コミュニティ福祉学部教授〕による授業報告であった。

早川先生からは、多岐にわたる生物学への興味を喚起させることにより、マイナーなイメージが

強い「行動学」を理解してもらおうという狙いで授業に臨まれたという説明があった。また、リアクションペーパーの有効な利用方法として、配布パターンを変えることや、直接手渡しで回収するなどの工夫、さらに①パワーポイントの利用、②アニメーションやビデオの利用、③板書への配慮、④板書時間の確保という点から、視覚や聴覚に訴えることの重要性やスライド提示と板書のタイミングを合わせ、板書が終わるまで待つという板書時間の確保を励行したことなどが報告された。また、単に学生へ求めるだけではなく、声を掛けることや、余談で気分転換を図るなど、きめ細かな配慮が感じられた。

次に、杉浦先生から「現代人とサプリメント」の授業報告がなされた。先生は一般企業から特任教員を経て、本学に着任されたこともあり、1回、1回のセミナーが勝負であった企業時代の経験から、授業中の私語についても、あまり騒がしいときは注意をするが、なるべく授業内容で興味を引き、静粛にさせたいと考えているとのことであった。また、その授業内容についても、栄養学の基礎から健康食品の歴史、ダイエット系サプリメントの危険性など豊富なデータに裏打ちされた、説得力のある報告であった。

これらの後、質疑応答、懇親会へ移ることになったが、議論は尽きることはなかった。このように、カリキュラムを運営する教員と科目を担当する教員が、「大人数授業」の課題に対して議論し、優れた授業実践報告を通じて懇談の場を設けることができ、有意義な会合となった。

2009年度からは抽選登録の回数が各学期2回となり、これまでと比べて「大人数授業」の状況は改善されることが期待される。この措置と合わせて、今回報告した「担当者連絡会」のようなFD活動の地道な蓄積が、質の高い全カリ授業を学生に提供することに繋がるのではないかと考える。

目次

総合科目担当者連絡会報告	沼澤 秀雄 (1)
自然科学教育研究室・情報科学教育研究室合同科目担当者連絡会報告	原田 知広 (2)
夏の東北大学見聞記「東北大学の自校史教育と高等教育開発」	藤野 裕介 (3)
2008年度全学共通カリキュラム運営センター主な活動	(4)

自然科学教育研究室・情報科学教育研究室 合同科目担当者連絡会報告

自然科学教育研究室主任 原田 知広（理学部物理学科准教授）

去る2008年9月27日に立教大学池袋キャンパスで行なわれた自然科学教育研究室・情報科学教育研究室合同担当者連絡会について報告します。土曜日午後1時30分という時間帯にもかかわらず15名もの教員が参加しました。

はじめに山田裕二全カリ総合部会長が開会の挨拶を行ない、ひきつづき全カリ総合教育科目の全体像について以下のような説明をしました。全カリが本学の教育に占める比重は非常に大きく、展開コマ数や卒業要件単位に占める単位数といった数字で具体的にみることができます。現在の平均クラスサイズは220名です。また履修人数の非常に大きなクラスも存在し、そうした授業では静粛性が低いなどの統計的な傾向があります。続いて、全カリ自然科学教育研究室主任として私が全カリ自然科学系科目についての概要を説明し、今年度自然研において収集した授業担当者の要望・感想なども紹介しながら、全カリの自然科学系科目の現状についてお話ししました。多くの学生が履修科目を決める際にシラバスの内容を重視することから、授業規模を適正にする上でもシラバスの記述が重要です。さらに全カリの授業を受けるほとんどの学生がいわゆる文系であるということから、全カリ自然科学系科目が果たす役割は非常に重要ですが、反面その運営には難しさが伴います。そして、長島忍全カリ情報科学教育研究室主任が全カリ情報系科目についてお話ししました。情報科目の位置づけとその具体的な内容や情報実習などにおける特有の問題点について説明がありました。今後の情報系科目の方向性として、高等学校や家庭での情報リテラシーの普及と専門分野での基礎教育としての情報教育の充実といった状況の変化に伴って、全カリの情報教育の総量については縮小する方向で検討されています。

その後、実際に授業を担当されている講師の方々に事例報告をしていただきました。「宇宙の科学1」を担当されている三原建弘先生は昨年度

履修者数が700名を超えてご苦労された経験を踏まえてさまざまな工夫を採り入れられ今年度は順調に運営できているとの内容で大変興味深いものでした。「地球環境の未来」を担当されている新山優子先生は、地球環境に関する科目を授業されている中で学生が興味をもてるようにするためのさまざまな工夫の実践についてお話をされました。「情報処理1」を担当されている高橋慈子先生が情報処理に関する授業の内容と学生の反応や取り組みの実践について、具体的な例を出しながらお話をされたのが印象的でした。

さらに、参加者全員で質疑応答・自由討論を行ない、非常に活発な議論となりました。この中のいくつかを紹介します。

授業規模・履修者数の集中に関する問題点とそれを制御する方策、学生が授業を受ける態度や基礎的な学力に関する議論があり、授業の静粛性を保つために教員ができる工夫や対処の方法について意見が出ました。またTA（ティーチング＝アシスタント）の配置条件や配置時期・試験補助の学生アルバイトの就労状況に関する問題点の指摘と今後の改善の方向性や授業運営方法・成績評価方法・シラバスに関する議論も行われました。全カリでは、学生の履修希望はなるべく受け入れる方針で運営していることや、TAも学生であることから困難な面があるものの、上記のような課題について運営面から改善していきたいと考えています。

最後に長島情報研主任が閉会の挨拶を行ない担当者連絡会は終了しました。学部の専門科目の授業と比較すると、全カリは運営に携わるものと授業担当者との連絡、また授業担当者同士の連絡を日常的に密接にとることが難しい状況です。今回の担当者連絡会はそのような状況で運営担当者・授業担当者の情報と認識を共有することができ、今後の全カリを改善していく上で大変貴重かつ有意義なものになったと思います。

夏の東北大学見聞記 「東北大学の自校史教育と高等教育開発」

全学共通カリキュラム事務室 藤野 裕介（本学職員）

【はじめに】

2008年9月4日、本学における特色 GP「立教科目」他大学調査の一環として、先進的な自校史教育に取り組まれている東北大学を訪問した。初めに、東北大学の長年にわたる歴史と在学生を結びつける自校史教育科目「歴史のなかの東北大学」について、次に東北大学の教養科目群「全学教育科目」を含む高等教育全般の研究開発を手がける「高等教育開発推進センター」についてお話を伺った。

この訪問は、本学から菊地進（総長補佐）、山田裕二（全カリ総合教育科目担当部会長）、八木美保子（大学教育開発・支援センター学術調査員）、藤野裕介（全カリ事務室職員）の4名で行った。

【東北大学の自校史教育（史料館にて）】

仙台駅に到着後、バスで10分ほどの片平キャンパスに向かった。正門近くの「史料館」にて、羽田貴史教授（高等教育開発推進センター）、永田英明助教（史料館）が迎えてくださった。この史料館は1907（明治40）年に創設され、約100年にわたる東北大学の記録文書や歴史資料を保存・公開する施設で、歴史の趣を感じさせる建物である。2006年からは学術資源研究公開センターの組織となり、その役割が強化されている。

「歴史のなかの東北大学」は、この「史料館」が主体的に関わる形で運営されており、2007年から年間2コマ（前後期1コマずつ）開講されている。開講の経緯は、史料館と百年史編纂室が今まで蓄積してきた多くの東北大学アーカイブスを、大学教育に活かせないかとの思いに端を發し、また、ちょうどその頃、先行事例としての九州大学や名古屋大学での自校史教育を参考としたことが契機となり、同大学でも2007年から自校史教育科目が開講されるに至った、とのことである。

この「歴史のなかの東北大学」は、史料館、百年史編纂室、文学研究科、高等教育開発推進センターの4部局の教員によるオムニバス形式で構成され、東北大学アーカイブスを素材として各担当者がいくつかの角度から歴史をひも解き、大学の歴史、東北大学の歴史、東北大学と仙台市の関わりなどをテーマとした講義が展開される。

開講間もないこともあってか、受講生は2007年度、2008年度ともに100名弱ではあるが、学外からの聴講生や留学生も履修しており、受講生の中には、今まで知らなかった東北大学の歴史の光

と影を知ることによってその魅力に気がつき、帰属意識が芽生えるなど「ためになる」といった声が多く聞かれるそうである。

東北大学における自校史教育は、創成期という印象ではあるが、その素材となるアーカイブスはとても豊富であった。同じ自校史教育科目「立教大学の歴史」を開講する本学においても、今後の展開を考える上で大変勉強になるものであった。

【東北大学の高等教育開発（副学長室にて）】

史料館を後に、場所を川内キャンパス「副学長室」に移して、同大学における高等教育開発についてヒアリングを行った。木島明博教授（副学長・高等教育開発推進センター長）、兵頭英治教授（副学長）、水原克敏教授（総長特任補佐）に対応いただき、特に高等教育開発の運営組織である「高等教育開発推進センター」についてお話を伺った。

東北大学では「高等教育の研究開発・全学教育の円滑な実施・充実した学生支援」を担う組織として、高等教育開発推進センターを2004年に設置している。同センターは「高等教育開発部・全学教育推進部・学生生活支援部」の3部局で構成され、入試開発、教養教育推進、保健管理、学生相談、キャリア支援など、学生の入学から卒業までの各分野を研究教育の対象と捉え、専属の教員を配置している。まさに、高等教育全般を研究教育の対象と捉え、理論と実践を通してその成果を全学に還元しているのである。

このような東北大学における高等教育開発の取り組みは、単に教養教育（全学教育）に留まらず、大学生活そのものを研究開発している点でとても興味深い。各分野の教員とそれを支える職員が一体となり、東北大学としての高等教育を創りあげていることは、これからの大学を構築する上で多くの示唆に富んでいると思えてならなかった。

【おわりに】

今回の訪問は、東北の学都・仙台における先進的な研究教育を垣間見るひとときであった。「歴史のなかの東北大学」を充実したアーカイブスのもとに教養教育の一部として関連部局と連携を図りながら開講していること、また、高等教育の抜本的な研究開発を手掛けていることなど、東北大学について知識の浅かった私にとっては、とても刺激的で、充実感の残る一日であった。

2008年度 全学共通カリキュラム運営センターの主な活動

<言語教育科目担当部会>

- ◆英語教育研究室
 - 4/3 前期FDセミナー
 - 7/2-15 前期カリキュラムアンケート実施
 - 7/5 前期担当者連絡会
 - 9/19 後期FDセミナー
 - 12/6 第10回大柴杯記念スピーチコンテスト
 - 12/13 後期担当者連絡会
 - ・次年度カリキュラム担当について
 - 12/15-1/16 後期カリキュラムアンケート実施
- ◆ドイツ語教育研究室
 - 7/24, 2/19 担当者連絡会
- ◆フランス語教育研究室
 - 6/30, 12/15 担当者連絡会
 - 1/30 FDセミナー
- ◆スペイン語教育研究室
 - 7/23, 1/28 担当者連絡会
- ◆中国語教育研究室
 - 7/12, 1/31 担当者連絡会
- ◆諸言語教育研究室
 - 10/1, 1/16 担当者連絡会
- ◆日本語教育研究室
 - 10/30, 3/16, 3/18, 3/23 担当者連絡会
- ◇言語科目共通
 - 12/15-1/16 授業評価アンケート実施

<総合教育科目担当部会>

- ◆総合部会
 - 7/25, 3/13 教育研究室合同担当者連絡会
- ◆人文学教育研究室
 - 3/13 担当者連絡会
- ◆社会科学教育研究室
 - 12/11 担当者連絡会
- ◆自然科学教育研究室・情報科学教育研究室
 - 9/27 合同担当者連絡会
- ◆スポーツ人間科学教育研究室
 - 4/4, 3/13 担当者連絡会
- ◆「立教生の学び方」
 - 6/19 授業打合せ会、12/4 担当者連絡会
- ◇総合科目共通
 - 前期、後期：授業評価アンケート実施

<学 外 対 応>

- 6/10 立命館大学教育文化事業課 来学
「立教科目」のカリキュラム
- 9/10 富山国際大学 来学
「英語カリキュラムについて」
- 10/6 龍谷大学キャリア開発部 来学
「立教大学における自校教育の取組について」
- 11/21 中部大学教務部 来学
「立教大学の教養教育カリキュラムについて」

<特色GP「立教科目」関連>

- ◆「特色GP採択記念シンポジウムⅣ」開催
テーマ：「自校教育の到達点と今後の課題」
日 時：2009年1月24日（土）13：00～17：00
池袋キャンパス太刀川記念館多目的ホール
- ・事例報告
 - 折田悦郎氏（九州大学大学文書館）
 - 別府昭郎氏（明治大学大学史資料センター所長）
 - 西山 伸氏（京都大学大学文書館）
 - 豊田雅幸（本学立教学院史資料センター）
 - 山口拓史氏（名古屋大学大学文書資料室）
 - 羽田貴史氏（東北大学高等教育開発推進センター高等教育開発部）
- ・コメンテーター
 - 寺崎昌男（本学大学教育開発・支援センター顧問、立教学院本部調査役）
- ・本学代表挨拶
 - 前田一男（本学立教学院史資料センター長）
- ・司会
 - 山田裕二（本学全学共通カリキュラム運営センター総合教育科目担当部会長）
- ◆「RIKKYO CHALLENGE 2009」の制作
学生部、キャリアセンター、チャプレン室事務課
- ◆「立教大学の歴史（映像版）」の制作
立教学院史資料センター協力
- ◆「履修計画・登録案内コンテンツ」の制作
教務部、メディア・センター

全カリニューズレター	No. 25
印刷	2009. 3. 25 発行 2009. 3. 31
発行人	上田 信
編集人	原田晃樹、川崎晶子、関 礼子
発行所	立教大学
	全学共通カリキュラム運営センター
印刷	神谷印刷株式会社